

「子どもの権利条約」を知ろう

「子どもの権利条約」がうまれて今年でちょうど20年です。「権利」っていったいなに？それは、身構えなくてはいけないようなことではなく、誰もがうまれたらあたりまえにあるものです。

4つの柱

生きる権利

- いのちをうばわれないこと
- 病気やけがをしたら治療を受けられること
- 大人は子どもにとって最もよいことを考えること

育つ権利

- 教育を受け、くつろいだ時間をもったり遊んだりできること
- 考えたり信じたりすることの自由が守られ自分らしく育つことができること

- すべての子どもがあらゆる種類の虐待や差別から守られること
- 障害のある子どもや戦争のある国の子どもはとくに守られること

守られる権利

「子ども委員会」スタート

地域のさまざまな人が手をつなぐ市民委員会では、松阪市に「子どもの権利条例」をつくることを柱に、子育て・子育てを支える地域社会をめざし、話し合いを重ねています。松阪市らしい「子どもの権利条例」をつくるために子ども自身が主体的に参加・参画する場として、第1回「子ども委員会」を開きます。中学生高校生世代のみなさんの参加をお待ちしています。

【第1回「子ども委員会」1月16日（日）11時～15時 市民活動センター】

参加する権利

- 自分の意見を言えること
- 自分の行動に誇りをもつこと
- 自分たちでグループをつくって社会にはたらきかけたりできること

**(特) 松阪子どもNPOセンターは
子育て・子育てをささえます**

興味を持ったら、参加したいと思ったら、たのしそうだと思ったら、もっと知りたいと思ったら、手伝いたいと思ったら、すべてのお問い合わせは、

《特定非営利活動法人 松阪子どもNPOセンター》

住所 〒515-0043 松阪市下村町1115 Tel・Fax 0598-20-1511
ホームページ <http://www.mknpo.jp/> eメール info@mknpo.jp 月～金 10:00～17:00

特定非営利活動法人松阪子どもNPOセンター

Winter 第109号

こども21

子どもたちがのびやかで豊かな「子ども時代」を過ごすために

発行 2011年1月1日
〒515-0043 松阪市下村町1115
TEL・FAX 0598-20-1511
ホームページ <http://www.mknpo.jp/>
eメール info@mknpo.jp



♪クリスマス会♪11組23名の参加でした
(12月15日♪花岡地区市民センターにて)

**明けましておめでとうございます
本年もよろしくお祈りします**

昨年12月18日（土）に行われた「子ども人権文化フェスタ2010inまつさか」において、開会と閉会の全体会を高校生と一緒に取り組ませていただきました。

8人のメンバーが自分の気持ちや考えを表現することを会議の中で重ねていきました。一口に自分の気持ちを表すと言っても、なかなか自分の気持ちがわからず、子どもたちも初めは頭の中で考えた言葉を出しているような感じでした。しかし、大学生世代のファシリテーターやメンバーと共に話を重ねていくうちに、どんなことを言っても受け止め合える関係ができていき、自分のことを見つめ、生活の中から感じたり思っていることが出せるようになりました。当日、大勢の人々の前で自分の意見を言った彼らの顔は輝いていました。全体会を進めていく上で、自分たちでつくってきた手応えをメンバーそれぞれが感じたと思います。

このフェスタでの取り組みをとおして、子どもが自分の思いや考えを言い合え、またそれを表明する「子ども委員会」をつくってきたいと思います。

理事長 塩谷 明美

あしかび
映画 葦牙 こどもが拓く未来
小池征人監督作品

2010年11月19日(金) 松阪コミュニティ文化センター

私たちは地域の皆さんと「虐待」について「権利」について一緒に考える機会をつくりたいと思い、松阪市と共催で「葦牙」の上映を企画しました。

近年、毎日のように心の痛む児童虐待のニュースが流れていますが、どこか無関心だったり、自分には無縁な出来事だと思っていないでしょうか。虐待は誰でも起こしうるものです。虐待を防ぐためには、日ごろから声を掛け合いささあう環境をつくるのが大切です。私たちがこの映画への声かけをしていく中で、様々な立場の方と子どものことそして子どもを取り巻く状況をそれぞれの視点で話をすることができました。

私たちの力は小さいものですが、関わった方々の力をつなぎ、子どもが豊かに育つ地域づくりをしていきたいと考えています。

生命の息吹-葦牙

「葦牙」は岩手県盛岡市の児童養護施設「みちのくみどり学園」で虐待を受け保護された子どもたちが職員や地域の大人のあたたかなまなざしを受け、傷ついた心を再生していくドキュメンタリー映画です。力強く生きている子どもたちとていねいに関わる大人たちの姿が描かれています。「葦牙(あしかび)」とは葦の若芽のことです。春になり水辺の葦が芽吹き、水面にそのとがった新芽が点々と顔を出します。「葦牙」は生命力の象徴なのです。



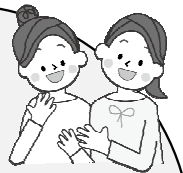
ご来場ありがとうございました

当日は1回目 10:00~ 2回目 14:00~ 3回目 19:00~の3回上映に394人の方に足を運んでいただきました。

主任児童委員、民生委員、放課後児童クラブ指導員、幼稚園、小学校・中学校の先生、保育士、行政の方、そして子育て中のお母さんなどさまざまな立場の方にご参加いただきました。また松阪市をはじめ多気町、明和町、大台町、伊勢市、津市などからも来ていただきました。

*参加費の収益の一部を、チャイルドラインMIEに寄付させていただきました。ご理解とご協力ありがとうございました。

映画を見た方のアンケートから



- 「三日に一人の子どもが、虐待のために亡くなっている!びっくりしました」
- 「どんなお母さんでも加害者になってしまう場面がある」
- 「自分自身の子育てを見直すことができました」
- 「スケートの練習に打ち込んでいる姿に、たくましいなあ、と感動しました」
- 「信頼できる人がいるという体験は自分の未来を信頼するために必要ですものね」
- 「今の世の中、子育ての親は厳しい生活、忙しいくらい情報に自分だけ『独り』を感じてしまうのは仕方ないと思います。ぜひたくさん心のリセットする機会をつくってください」
- 「なかなか心の中のことを上手に表現できなくて、不安をかかえてしまったり・・・大人にもわかってほしいことがあるから」
- 「地域の見守りや支えあいの大切さを改めて感じました」
- 「よりそってくれる人の必要性を感じる」
- 「子どもの世話をするだけでは信頼関係はうまれない。ともに生きてこそ通じるものがある」
- 「今後自分が関わっている子どもたちのために何がしていけるのか、改めて考えて行きたいと思います」

「親にも子どもにも必要な支援ができるネットワークが大切」

「わたしたち1人ひとりの心育てからしたい」

「自分のできることを考えたい」

「少しは知っていると思っていましたが、このような実態を見るのは初めてでした」

この映画を観たことで、虐待の現実を知り、身近にいる子どもたちへの関わり方を振り返るきっかけになった言葉が目立ちました。

子どもたちが健やかに育つために大人ができることを考えた人も多く、なにか自分にできないか、という問いかけがたくさんありました。



チャイルドラインとは、18歳までの子どもの声を聞き、子どものこころを受けとめる全国規模の子ども専用電話です。

地域づくりをいっしょに考えませんか

子ども支援フォーラム(仮称)
~チャイルドラインで地域・社会を変える~

(チャイルドライン全国フォーラム)

・2011年11月26日(土)・27日(日)

・場所 津市男女共同参画センター

子育て・子育てをささえる
地域づくりを考えるフォーラムです

まずは地域実行委員会をのぞきに来ませんか?